

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	ナガバノイシモチソウの保護事業								
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	生涯学習課	係	文化財保護係	評価票作成者	文化財保護担当係長 近藤よし江	
1-3 総合計画における施策の体系	節	教育文化			基本施策	文化財の保護		コード	4 1 3
		「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			単位施策(中)	学習環境の整備		コード	4 1 3 1
	項	生涯学習の推進			単位施策(小)	ナガバノイシモチソウの保護		コード	4 1 3 1 3
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	豊明市民及び自然環境を守る人々全般		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		ナガバノイシモチソウを絶滅から守り、その保全活動をPRすることによって自然環境の大切さを認識させる。			
1-5 事務事業の内容	愛知県指定天然記念物「豊明のナガバノイシモチソウ」を開花期の4日間午前9時から11時30分まで一般公開する。また年間を通して保全活動を行い、種の保存を図る。								

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	一般公開については手順のマニュアルを見直し、効率化を図った。保全については観察日記を整備した。	都市近郊にありながら身近な自然の残る本市の特色と貴重性に人々の関心が高まりつつある。	開花を毎年期待して来訪する見学者も多く、自然環境の保全を意識する良い機会として必要性が高まりつつある。		
平成19年度	〃	〃	〃			
平成20年度	〃	〃	〃			
平成21年度	一般公開については、去年に引き続き平日を加えた。また、自生地に生育するシラタマホシクサの観察が同時に行なえるよう、公開の時期を変更してみた。	都市近郊にありながら身近な自然の残る本市の特色と貴重性に人々の関心も高い。	開花を毎年期待して来訪する見学者も多く、自然環境の保全を意識する良い機会として必要性がある。			
平成22年度	豊明高校のSPP事業に協力し、一般公開時には高校生が説明をする場面も作った。都市近郊にありながら身近な自然の残る本市の特色と貴重性に人々の関心も高い。開花を毎年期待して来訪する見学者も多い。希少種が自生していること、それを保護している現状を知るとともに、自然環境の保全を意識する良い機会として必要性がある。					
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	一般公開の見学者数(人/日)		150(人/日)	150(人/日)	観察を通して自然環境への関心がどれだけ喚起されたかが指標となるが数値化は困難であるため見学者の数を指標とする。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(単位)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		直接事業費 b(千円)	525(人)	532(人)	379(人)	432(人)	352(人)				
人件費 c(千円)	934	812	693	674	641						
合計コスト d(b+c)(千円)	288	202	202	202	202						
単位コスト d/a(千円)	1,222	1,014	895	876	843						
	1人当たり 2.3	1人当たり1.9	1人当たり 2.3	当たり 2.0	当たり 2.4	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 委員報酬(保全等) 135千円、一般公開パンフレット 48千円、水道代・電気代 246千円、研究委託 150千円、草刈委託 62千円
人件費 202千円(4~9月 1.5hで月5回、10~3月 1.5hで月2日 42回×1.5h×1人)

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(人/日)	131	133	75	87	70					
	後期目標値に対する達成度(%)	87.3	88.7	50.0	58.0	46.7					

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A	A	A	A					

4段階評価結果
A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準
必要性(必要な事務事業であるか)
公共性(公が実施する意味があるか)
妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み		事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価	
	平成18年度	周辺環境の変化に対応		公開マニュアルの見直し、案内看板の位置		開花数は例年並(3000株)で天候も安定していたため順調な見学者があった。アンケートによる評価についても自然保護を意識する内容が見られ
平成19年度	"		平日の一般公開を望む声があるので、20年度は試験的に一般公開日を一日増やし月曜日の公開を行う。		開花時期は昨年に比べやや遅かったが、一般公開時には例年並みの株数が開花し、見学者も昨年を上回ることができた。	
平成20年度	"		従来の公開日と変わらず、公開日程を再検討する。		公開日数を1日増やしたが、見学者数は増加しなかった。公開日程、広報などの検討を要する。	
平成21年度	"		見学者の意見・要望を聴く。		他の植物(シラタマホシクサ)も開花する時期に公開日を変更してみた結果、見学者が増加した。	
平成22年度	周辺環境の変化に対応する。観察橋の修理。大狭間湿地の一般公開を同日に行うことで相乗効果を図る。見学者の数は減少した。記録的猛暑の影響かと推測する。希少種の存在を多くの市民に知らせる事が必要。					
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度	A	継続して事業を進めること。	
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			